

[コース受講]IT投資・DXを成果につなげる実践力養成勉強会【会場】 (4126238)

DX・ERP導入・IT投資・プロジェクト推進において頻発する失敗要因を構造的に理解し、業務起点で成果につなげる実践力を習得します。単なる知識習得ではなく、「自社で活用できる形に落とし込む」ことを重視した伴走型・実践ワークプログラムです。

開催日時	2026年10月15日(木) 10:00-17:00会場 (17:00から30分交流会あり) 2026年11月17日(火) 10:00-17:00会場 2026年12月15日(火) 10:00-17:00会場 2027年1月15日(金) 10:00-17:00会場 2027年2月18日(木) 10:00-17:00会場 2027年3月19日(金) 10:00-17:00会場 (17:00から30分交流会あり)
JUAS研修分類	プロジェクトマネジメント(プロジェクトマネジメント)、ビジネスアーキテクト(業務改革)
カテゴリ	IS戦略実行マネジメント・プロジェクトマネジメント 詳しく見る
講師	青藤宏樹 氏 (株式会社Fun Consulting 代表取締役) アサヒグループホールディングス株式会社のIT部門にて、グローバルIT戦略、基幹システム刷新、業務改革に従事。JUAS研究会に約4年間参加し、DX部会長を歴任。会員企業と同じ立場で、DX推進やIT活用の課題に向き合う経験を有する。独立後は、経営コンサルタントとして企業のDX推進・業務改革支援を実施。業務フロー起点でITを設計する独自手法「業務フロー型開発」を軸に、現場で再現可能なDX推進・IT投資意思決定支援を行っている。IT・DX関連書籍を多数執筆。企業のDX推進・IT投資判断において、実務に即した意思決定支援を強みとする。企業のIT部門・DX推進部門における実務に直結する支援・講演を行っている。
参加費	JUAS会員企業/ITC: 192,500円 一般: 247,500円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数6枚】
会場	一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会 (NBF東銀座スクエア2F)
対象	・6回通してご参加いただける方 ・情報システム部門、DX推進部門の責任者・担当者 ・業務改革担当者 ・ITプロジェクト責任者・担当者 詳しく見る
開催形式	講義、グループ演習
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。(2時間1ポイント)
ITC認定時間	36

主な内容

■受講形態

会場のみ（オンラインなし）

■テキスト

当日配布

■開催日までの課題事項

事前課題あり：開催が近くなりましたら、別途詳細についてご案内いたします。

◆IT投資・DXを成果につなげる実践力養成コース◆

～業務起点で考え、自社で活用できる課題整理と設計の力を養う6回コース～

本セミナーは、DX・ERP導入・IT投資・プロジェクト推進において頻発する失敗要因を構造的に理解し、業務起点で成果につなげる実践力を習得することを目的とします。

特に以下の力の習得を目指します。

- ・業務フローに基づく課題整理力
- ・IT投資・DXの意思決定力
- ・プロジェクトを前に進める実行力
- ・自社に持ち帰り実行できる具体的アクション設計力

これにより、企業におけるIT投資の精度向上およびDX推進の実効性向上を実現します。

<本講座の特徴>

(1) 失敗事例を起点とした実践型研修

実務上よく見られる失敗事例を基にしたITプロジェクト・DXの失敗構造をベースに、「なぜ失敗するのか」、「どうすればよかったのか」を受講者自身が考える設計です。一般的な成功事例中心の研修とは異なり、失敗構造から学び、再設計する点に特徴があります。

(2) 自社適用重視

毎回、

- ・自社の現状整理 (As-Is)
- ・改善案 (To-Be)
- ・実行アクション

を検討し、現場で活用可能な具体的アウトプットを作成していただきます。

(3) 業務／人／意思決定の3軸による構造理解

IT導入・DXの課題を

- ・業務
- ・人
- ・意思決定

の3軸で整理し、再現性のある思考力を習得していただきます。

<内容>

～業務起点でDXを推進する力をつける～

<第1回>成功率100%のシステム開発（業務フロー型開発(R)の基本）

システム開発は難しいものではありません。
しかし、出発点を誤ると必ず失敗します。
本講座では、まずその「誤りの構造」を明らかにし、
次回以降で、成功へ導く具体的な方法論を体系的に習得していきます。

■講義

なぜ要件定義をしても失敗するのか（構造分析）
工程分断が生む手戻り・不信感のメカニズム
アジャイルの限界と誤解
業務フロー型開発(R)の全体像

【演習（予定）】

典型的な失敗プロジェクトの構造分析
「どこで分断が起きているか」の可視化
業務起点で考えるための視点整理

<第2回>評価されるDXは業務から始まる（業務起点で考えるDX）

DXは、特別な技術や大規模投資から始まるものではありません。
「自社の業務を正しく理解すること」、ここからすべてが始まります。
業務を見ずに進めるDXは、必ず行き詰まります。
一方で、業務から始めれば、DXは再現可能な取り組みに変わります。

【講義】

DXの本質（IT化との違い）
なぜDXは失敗するのか（構造的な原因）
業務フロー可視化の重要性
業務フロー型開発®とDXの関係
DXを再現可能なプロセスにする考え方

【演習（予定）】

自社業務の簡易フロー洗い出し
属人化・ムダの特定
「どこからDXを始めるべきか」の整理

<第3回>なぜプロジェクトは進まなくなるのか（業務・人・意思決定の観点）

プロジェクトは、努力不足で止まるものではありません。
「決められない構造」になっているから止まってしまいます。
目的・経営・人選・業務、この前提が揃わない限り、どれだけ管理を強化しても前には進みません。

【講義】

プロジェクトが進まなくなる構造分析
目的設定の重要性と誤り
経営の関与と意思決定の役割
人選・体制設計の考え方

業務起点によるプロジェクト推進

「進捗管理依存」からの脱却

【演習（予定）】

停滞プロジェクトの原因分解

自社プロジェクトの前提条件チェック

「何が決められていないか」の可視化

＜第4回＞ERP導入の勘所（業務フロー起点の設計）

ERP導入は、時間がかかるものではありません。

進め方を誤ると、いくらでも長くなるものです。

一方で、業務フローから始めれば、

- ・要件の後出しがなくなり
- ・判断が早まり
- ・手戻りが消えます

結果として、導入期間は大幅に短縮されます。

【講義】

ERP導入が失敗する構造

業務フロー起点のERP導入アプローチ

スコープ設計と優先順位の考え方

To-Be業務フローと要件定義の関係

ベンダー選定（RFI・RFP）の実践視点

本番後の定着と改善の考え方

【演習（予定）】

ERP導入の失敗パターン分析

業務フロー起点での要件整理（簡易ケース）

「やらないこと」を決めるスコープ設計演習

＜第5回＞生産管理は「現場のムダ」を見える化する（業務とデータの接続）

生産管理は、現場を縛る仕組みではありません。

現場のムダに気づき、改善を生み出すための仕組みです。

時間・ロス・工数が見えた瞬間、現場は自然と動き始めます。

その状態をつくることこそが、生産管理の本質です。

【講義】

なぜ生産管理は機能しなくなるのか（構造分析）

時間ロス・工程ロスの可視化手法

品目別・ロット別管理の実践ポイント

実績データと原価・品質の関係

工数管理と現場改善のつなげ方

入力負荷低減と定着の設計

【演習（予定）】

現場のムダ・ロスの洗い出し

「どのデータを取るべきか」の整理

改善につながる指標設計（簡易ケース）

＜第6回＞経営を動かす原価管理（現場と経営の接続）

原価は、単なる数字ではありません。

現場の行動の積み重ねであり、経営の結果そのものです。

原価が見えなければ、経営は必ず「勘と経験」に戻ります。

一方で、原価が“使える形”になれば、企業的意思決定と改善は、大きく変わります。

【講義】

なぜ原価管理は機能しないのか（構造分析）

標準原価と実際原価の使い分け

現場データと原価精度の関係

原価定義統一と比較可能性

間接費・外注費の見える化

原価管理KPIと経営意思決定への活用

原価システム・BIの役割

【演習（予定）】

原価管理の問題点整理（自社観点）

「どの原価が意思決定に使えていないか」の分析

改善につながる原価指標設計

◆選べる受講形態

こちらのお申込みは【コース受講】となります。

全6回コース勉強会：IT投資・DXを成果につなげる実践力養成コースの6回通し受講となります。

○コース受講

6回通してご参加いただける方

○スポット受講

参加したいテーマの講演のみ受講。

- ・ Day1 『成功率100%のシステム開発』 [お申込みは>>こちら](#)
- ・ Day2 『評価されるDXは業務から始まる』 [お申込みは>>こちら](#)
- ・ Day3 『なぜプロジェクトは進まなくなるのか』 [お申込みは>>こちら](#)
- ・ Day4 『ERP導入の勘所』 [お申込みは>>こちら](#)
- ・ Day5 『生産管理は「現場のムダ」を見える化する』 [お申込みは>>こちら](#)
- ・ Day6 『経営を動かす原価管理』 [お申込みは>>こちら](#)